

AMCoR

Asahikawa Medical College Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

こころのりんしょうa・la・carte (2008.03) 27巻1号:10.

【子どものチックとこだわり】チックという名前は何に由来しているのですか?何かの略称ですか?

沖 潤一

Q

2

チックという名前は何に由来しているのですか？ 何かの略称ですか？

A. チック (tic) とは、突然に起きる筋肉の瞬間的な収縮のことです。何かの略称ではありません。アメリカ精神医学会 (DSM-IV) によると、急速、反復性、非律動性、常同的な運動あるいは発声であり、①一過性チック障害、②1年以上持続する慢性運動性あるいは音声チック障害、③多彩な運動性チックと1つ以上の音声チックが1年以上持続するトゥレット障害に分類されています。1978年、Shapiroらによって、小児期の一過性チックとトゥレット障害は、病因を同じくする一疾患であり、チック症の両極に位置する一病型であることが明らかにされました。

また、チック症は、単純性と複雑性にも分類されています。運動性チックの単純なものは、素早い動きであり、瞬目 (まばたき)、首振り、顔をしかめる、肩をすくめるなどがよく見られます。単純性音声チックには、咳払い、鼻を鳴らす、ウウウといった喉鳴らし (のどを鳴らす) があります。これに対して、複雑運動性チックでは、体のいろいろな部分が動き、顔の表情を変える、飛び跳ねる、人や物に触るといった運動が出現します。私の敬愛する北杜夫氏の著書の主人公、山高武平氏の歩き方が、複雑運動性チックを絶妙に表現しているので引用させていただきます。「彼は一歩踏み出そうとして、残った足の爪先でピョコンと、伸び上がった。瞬間、彼の全身は硬直し、単に爪先でのびあがっただけでなく、天に向かって、とびあがったかの観があった。……緊張しているときほど、このピョコリは甚だしくなる」。これに対して、複雑音声チックでは、「アロン」「オラオラ」「エロン」といった奇声、ブツブツ言う、不適切な言葉を使う、汚言症 (「バカ」「オッパイ」といった卑猥で、汚い言葉を発する)、反

響言語 (相手の言った言葉を繰り返す) などが見られます。

チックはストレスで増加し、集中したときに減少します。また、学校ではほとんど出現しないのに、家に帰ってリラックスしたときやテレビなどを見ているときに増えることも稀ではありません。このため、意図的にチックをしていると思われるため、育て方の問題と言われたりすることがあります。しかし、決して意図的に行われるのではなく、育て方の問題でもありません。生物学的な要因 (神経伝達物質のアンバランス) が基礎にあり、年齢・環境といった誘因となって生ずると考えられています。

各種の診断基準では、チックが身体のどの範囲で起きているのか、発声を伴っているのか、どの程度症状が続いているのかを重視しています。しかし、大切な点は、チックがみられることで本人がどのような不利益を蒙っているのか、学校や家庭でどのような不適応が生じているのかを明確にした上で対応することです。

参考文献

Shapiro, A.K., Shapiro, E.S., Bruun, R.D. et al.: Gilles de la Tourette Syndrome: Signs, Symptoms and Clinical Course. Raven Press, New York, p.149, 1978.

北 杜夫: 奇病連盟. 朝日新聞社, 東京, 1967.
NPO 法人日本トゥレット協会編: チックをする子にはわけがある: トウレット症候群の正しい理解と対応のために. 大月書店, 東京, 2003.

(沖 潤一/旭川厚生病院)